

巣立つ 令和前線「輝ク笑顔ノ花満開」の96名

送辞

男鹿の大地に暖かな日が差し、草木が芽吹く季節となりました。通い慣れた思い出あふれる男鹿東中学校を巣立つ卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

たくさんの期待と希望を抱き、この男鹿東中学校に入学してから三年という月日が流れました。充実した思い出深い三年間だったと思います。

そして、新たな未来への期待に胸を膨らませていることでしょう。

私たち在校生にとっても先輩方と共に過ごした日々は大切な思い出です。入学したばかりの私たちを笑顔で、温かく迎えてくださったあの日から、先輩方は常に私たちのあこがれでした。

大運動会では、互いを励まし、全力で楽しむ姿。東中祭での見る人全てを感動させるクラス合唱、ステージ発表では、私たちを笑いで包んでくれました。全ての行事において、全力で企画し、全力で楽しみ、常に皆で一つの目標に進んでいくその団結力は、私たちの模範そのものでした。

この先、先輩方はそれぞれの道を進まれるわけですが、その道は決して平坦なものではないと思います。思わぬ壁にぶつかってしまったり、涙を流し、諦めようとしてしまうかもしれません。そんな時、心の支えになってくれるのが「仲間」だと思います。

私も小学校から中学校に上がるとき、仲の良かった友達が野球で他県の中学校へ進学することになり、初めて別れというものを経験しました。互いを認め、一緒に泣き、一緒に笑い合っ、家族のように長い時間を共に過ごしてきたからこそ、別れはつらいものでした。しかし、「仲間」というものは、それで終わりではありません。壁にぶつかったとき、何かを投げ出したくなるとき、絶対に心の支えになります。「あいつだって頑張っているんだ。」「あいつだったら笑って励ましてくれるよな。」と考えるだけで自然と笑顔になり、プラスに物事を考えられるようになります。東中で巡り合った仲間たちを生涯の宝物として、信念をもって未来を切り拓いてください。

最後に、新型コロナウイルス感染症の影響により、在校生全員で先輩方をお見送りすることができないことを残念に思います。しかし、私たちの想いは変わらず、この学び舎で共に生活できたことを心から誇りに思います。

この先の人生、本当に何が起ころかわかりません。自分の夢をかなえることは簡単ではありませんが、今まで支え続けてくれた家族や仲間は、背中を押し、応援してくれるはず。自分のためだけでなく、応援してくれる大切な人たちのためにも頑張りたいと思います。道は違えども、誰かのために頑張ることは同じです。私たちが在校生も先輩方が創り上げてきた伝統を守り、これから入学してくる後輩たちのために、更に素晴らしいものにしていくことをお約束します。男鹿東中学校をいつまでも忘れることなく、温かく見守り、ご支援くださいますよう、心からお願ひ申し上げます。これまで本当にありがとうございました。

これからの皆様のご健康とご活躍を祈念して、送辞とさせていただきます。

令和二年三月七日

在校生代表 秋山 拓真



答辞

例年ない暖冬で、ひと足早く春が訪れました。グラウンドの芝生も優しい光に包まれて、青々と輝いています。この素晴らしい日に、私たち96名は、三年間の中学校生活を終え、一人一人の道に旅立っていきます。三年間を思い返すと、いろいろな感情があふれてきます。そんな中でも、一番にこみ上げてくるのは、友達と共に学び合った楽しさや、語り合った喜びです。

一年生の宿泊学習では、磯遊びで、荒々しい岩を渡り歩き、海に落ちて笑い合いました。夜のレクリエーションでは、みんなそれぞれの得意の芸を披露し、爆笑の渦に包まれました。二年生の修学旅行では、ディズニーランドに行き、夢の時間を過ごしました。宿泊先のホテルでは、いつまでも会話が尽きず、就寝時間を忘れてしまうほどでした。

そして三年生。運動会の応援合戦では、後輩たちをまとめる立場となり、その大変さを知りました。応援の内容を自分たちで考えることや、中学校の運動会を体験したことのない一年生に分かりやすく教えることは、僕たちにとっても初めての経験で、何とか良いものをつくり上げようと、仲間たちでたくさんの時間をかけて話し合いました。苦勞をして練習を重ねるうちに、僕たちの中には「やればできる!」という自信が芽生え始めてきました。運動会当日は、どの色も団結力を発揮し、順位が付けられないほど、魅力的な応援合戦になったと思います。僕には、運動会でもう一つ忘れられない出来事があります。それは、開会式の校歌斉唱です。伴奏が流れないというハプニングで、思い切って、校歌の出だしを歌いました。するとみんなが大きな声で後に続いてくれたのです。一人で歌うのは勇気がいりましたが、僕は確信していたのです。必ずみんなが応援してくれると。それだけ、僕たちは強い絆でつながっていると感じていました。その絆は、東中祭で更になり、クラス合唱や後夜祭で揺るぎないものとなりました。そして、この絆は、一生切れることはないでしょう。部活動やクラスの垣根を越えて一人一人が大切な仲間です。今までありがとう。

一生の宝物は、もう一つあります。僕は、ラグビー部に所属していました。日々の練習はきつくて、つらく、手を抜きたくなることもありました。でも、仲間がいてくれたから、頑張ろうと思えました。最後の大会では、三年間の全てをぶつけました。結果は悔しかったけど、全力を出し切ったということに、後悔はありません。この仲間と共に成し遂げたという思いは、永遠に心に残ると思います。

この大切な仲間と出会えたのも、両親のおかげです。毎日おいしいご飯を作ってくれて、ありがとう。試合を見に来てくれてありがとう。洗濯をしてくれてありがとう。見守ってくれてありがとう。たくさんの感謝があふれてきます。これからもお世話になりますが、少しずつ恩返ししていきたいです。

そして、先生方にも感謝しています。先生方には、迷惑ばかりかけていたけど、いつも励まし、応援してくれました。時には厳しく叱られたけれど、勉強だけではなく、人としての生き方や、人生で必要なことを教えてもらいました。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、これからは、皆さんが男鹿東中学校の顔です。僕たち卒業生は、リードするのが苦手で、皆さんを不安にさせたことがあったかもしれません。でも、みんなで力を合わせて、折れずに頑張ってきました。それに一生懸命ついてきたくれた皆さんなら、僕たち以上に、様々なアイデアを出し、活発に活動できると思います。これからの男鹿東中学校をよろしくお願ひします。

これから、一人一人自分の道を歩んでいきますが、仲間との絆を胸に、どんな壁も乗り越えていきます。感謝を忘れず、夢に向かって努力し続けることを誓って、答辞といたします。

令和二年三月七日

卒業生代表 小玉 啓斗

